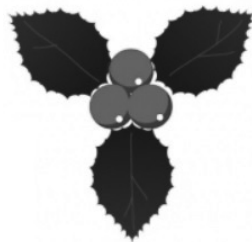


# 農業



令和3年12月号

会誌 No. 1684

## 目次

総裁秋篠宮皇嗣殿下

岩手県下の農事功績表彰者とオンラインでご懇談……………吉田 岳志 3

巻頭言

もう一つの都市と「農」の地域共生……………進士五十八 7  
—ニュー三会堂ビルへの期待—

論 壇

化学窒素肥料：負の遺産とその対策……………陽 捷行 8

❖ 秋期中央農事講演会 ❖

原発事故から10年 福島・飯舘村の再生とは何か……………田尾 陽一 10  
自然と人間の共生

❖ 食用タンパク質研究会 ❖

第1回食用タンパク質研究会…………… 25

❖ 食を楽しむ ❖

保存食のエスプリ……………脇 雅世 33

❖ 研究の最前線 ❖

ミニマムヒーティングプロセスによる……………植村 邦彦 34  
食品の高品質殺菌技術の開発と課題

❖ 農業・農村の現場から ❖

国内産小麦の主産地における品種転換と……………吉田 行郷 39  
それに伴う需要の変化

## 世界の農業は今

オランダ農業の今……………後藤 一寿	45
—欧州グリーンディール・Farm to Fork 戦略実現へ向けた動き—	

## 私の経営と志

暮らし・育ち・育て・つなげる……………岡村 知世	51
—埼玉から福井で就農—	

## 統計情報

2020（令和2）年 農業経営体の経営収支……………	53
----------------------------	----

## 農政情報

令和3年度農業技術功労者表彰……………	54
---------------------	----

大日本農会だより……………	55
---------------	----

『農業』年間総目次……………	56
----------------	----

編集部から……………	60
------------	----

## 会誌「農業」に関するアンケート

### 表紙写真説明

### 福井「上庄さといも」の収穫作業（福井県大野市）

福井県奥越地区のサトイモは高い品質により全国的に評価を得ている特産品で、2020年度の生産量は913 t、約2億7千万円を売り上げるJA福井県地域特産品目の一つとなっています。

中でも上庄地区で栽培される「上庄さといも」は、霊峰白山や荒島岳といった1,000m級の山々から流れてできた砂質壤土からなる排水良好な圃場と、九頭竜川や真名川などの豊かな水が流れる恵まれた環境で栽培されています。生育期間である4～11月は盆地特有の昼夜の温度差が大きい気象によりでんぷん含量が高くなり、調理した時に煮崩れしにくいもちもちとした独特の食感となっています。

大野在来と呼ばれる当品種は古くから栽培され地域に定着していましたが、1972年に行われた優良系統の選抜が現在に至るまで徹底して継続されていることから、高品質な「上庄さといも（大野在来）」の系統が維持されています。2017年には地理的表示（GI）保護制度にも登録され、さらなる産地の発展のため生産者一丸となって栽培に取り組んでいます。

出荷は10月から12月末まで続き、地域の誇る味覚を全国へ届けています。

（JA福井県奥越基幹支店総合企画部総合企画課 若山 唯）